14.3.8 裏 込 め

山留め材と地山との間に生じる空げきには，全長にわたって裏込め注入を行わなければならない。

山留め材を取外さないのが原則であるが，山留め材と地山との間に生じる空げきを埋めるために，モルタル，その他の注入を行わなければならない。崖堆地帯や設計上水平抵抗を期待する場合は，特に入念な裏込めを必要とする。なお，地盤の状況や掘削時の状況によって注入パイプの本数や注入口の配置については別途の検討を必要とする。このためコンクリート打込み前にあらかじめ内径 50 mm 以上のパイプを設置し，コンクリート打込み後にこのパイプから低圧の注入を行う。さらに注入がよく行われたことを確認するために，別の検査用パイプを建込んでおくことが必要である（図-解 14.3.1 参照）。

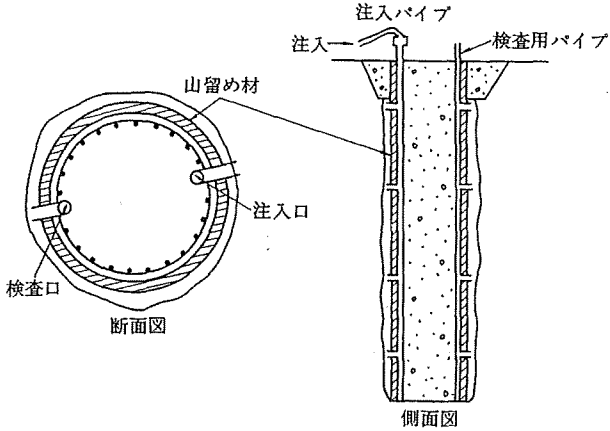

図-解 14.3.1 裏込め注入の一例

14.3.9 施 工 記 録

14.2.8 の規定によるものとする。

14.2.8 によるものとするが，深礎工法特有の事項についても記録する必要がある。